

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102758
法人名	有限会社 イキキライフセンター
事業所名	グループホームほおずき
所在地	香川県高松市松並町649番地1 (電話)087-815-3810

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価決定日	平成20年9月16日

## 【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16年1月15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	4人 非常勤 4人 常勤換算 6.7人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2階～3階部分
------	----------------------------

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	16,000円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4)利用者の概要(平成20年7月15日 現在)

利用者人数	7名	男性	1名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	58歳	最高	97歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	栗林病院 全人クリニック トイバナクリニック 佐藤クリニック 亀田歯科
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム ほおずき」は市街地に近く、バス路線沿いにあり、1階は事務所、2階3階が居室になっている。開放された玄関前にはベンチが置かれ、夕刻には入居者の方々が降りてこられて、庭先の花や自動車の往來を眺めたり、近隣の方と言葉を交わされるなど楽しんでいる。2階ホールには、対面式キッチン、洗面所などがあり、丸い食卓、テレビ、ソファなどが配置され、調理の匂いや職員との会話が日常的に交わされ、和やかな雰囲気である。入居者は、昼間は全員ここで過ごしており、喜怒哀樂を共にしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎月発行している「ほおずき新聞」を地域住民に見ていただき、ホームの啓発活動や交流に努めている。消防署や自治会、老人会などと連携して防災時の協力体制を図るなど、地域に密着したホームを目指して、具体的に改善課題に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の異動があり、新しい介護責任者とメンバーで自己評価に取り組み作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を実施し、毎月発行している「ほおずき新聞」を中心に近況報告や情報交換をして、サービスの資質向上に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の日常の生活状態を書いて、「ほおずき新聞」と一緒に個別に発送している。家族などが来訪された機会に話し合い、意見や苦情などを聞くようにして、運営に反映するように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、清掃活動や夏祭りなどに参加したり、美容院など地域の商店街を利用して、交流に努めている。ホームが地域の自主防災の避難場所になっており、自治会と連携し協力体制をとっている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の方が地域の中で、家庭のように「ほっ」とした気持ちで、その人らしく過ごせるように支えていきたい思いを、事業所の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念「ほっ」を、玄関やホーム内の廊下など随所に掲示している。	○	全職員が事業所の理念を理解し、新しい介護責任者を迎え、前向きに具体的な話し合いをして、チームで理念の実践に取り組まれることを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、清掃活動や祭りに参加するなど、地域との交流に努めている。	○	地域の自主防災の避難場所になっており、消防署の協力で救急救命講習会の定期的な実施や、老人会や小・中学校との交流など、さらなる取り組みを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業主や職員は評価の意義を理解しており、具体的な話し合いで、全職員が自己評価に関わり取り組んでいる。	○	さらに、具体的な改善課題にチームで取り組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、「ほおずき新聞」などで、ホームの状況報告や情報交換をして具体的に話し合い、運営に活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の問題などを相談し協力を得ながら、市と連携してサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回入居者の状況を書いて「ほおずき新聞」と併せて家族に送付している。入居者の心身状態の変化が生じた時は、その都度、連絡するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や重要事項説明書に苦情意見の連絡先を明記しているが、家族などが来訪された機会に、意見や苦情を聞いて運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ず異動がある場合は、早期に人員確保に努め、入居者への影響が最小限になるようにしている。	○	運営者は、職員が継続して勤められるように、さらに、前向きに配慮されることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内書などは、全職員が閲覧できるようにしているが、管理者は、職員の資格習得や研修会などの参加に対して、配慮し協力的である。	○	ホーム内でも研修の機会をつくり、お互いに資質の向上に取り組まれることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加して情報交換に努めている。	○	お互いに施設訪問やミーティングなどの機会を持ち、支援サービスの質の向上に反映してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人と相談して、来所したりショートステイ的に利用してもらうなど、ホームに馴染んでいくように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	相手の立場になって言動し、共に学び支えあう関係を築いていくように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や日頃の行動から、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、食物や外出先を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護日誌などに個々の状態を詳細に記載しており、課題や支援方法を家族と話し合っ、介護計画を作成している。	○	介護計画の作成の必要性を全職員が認識し、個々の職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成するように、さらに取り組みされることを望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングを行い介護計画を見直しているが、状況の変化にともない現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの利用など、要望があれば事業所の状況により柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診や定期的な往診など、いつでも適切な医療が受けられように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医師と話し合っ、事業所で可能な支援方針を全職員が共有している。	○	重度化や終末期のあり方を、家族やかかりつけ医と十分に話し合い、入院先の医療機関の確保などの取り組みが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「自分がされて嫌なことはやらない」を念頭に、個人のプライバシーを損ねないような言動に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の一人ひとりのペースで過ごせるように支援しているが、職員の都合が優先してしまう場合もある。	○	勤務時間の関係もあり、ホームの一日の流れは設定されているが、可能な範囲で個々のペースにあわせた暮らしが支援できるように、さらなる取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの料理を提供したり、食事の準備や片付けなどをできる範囲で一緒に行い、同じテーブルで職員と共に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、毎日入浴しているが、夜間の入浴や温泉などの利用も検討している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの菜園や家事など、入居者の力量に合わせた役割で気晴らしの支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を楽しみにされている入居者が多く、食料品の買い物や外食、映画、お芝居など個別や全員で外出するように日常的に話し合い取り組んでいる。	○	家族の協力で旅行やふるさと訪問、夏祭り、法事など外出支援に取り組んでいる。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の好天気の日には、玄関は開放し各階へのドアや居室も鍵をかけない取り組みをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所が、地区自主防災会の公助避難場所になっており、消防署と連携して年2回防災訓練を実施している。	○	ホーム独自の災害時のマニュアルを作成し、地域と協力して、さらに災害時対策に取り組まれることが望まれる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録や、入浴後や夜間、起床時、ティータイムなど水分確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方々は、昼間は2階の食堂兼居間で過ごされることが多く、テレビやソファも配備され対面式キッチンで居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は手作りの表札で趣があり、使い馴れた調度品や写真で自分らしく配慮されている。		